

旧三江線鉄道林森林活用実証実験報道公開

令和6年11月29日邑智郡美郷町乙原地内の鉄道林(※)において、旧三江線の線路敷を利用した木材搬出作業が報道関係者に公開されました。

これは美郷町とJR西日本が連携し、旧三江線森林再生実証実験として行われるもので、報道機関・実証実験関係者など25名程度の参加がありました。

この取組は、6年前に廃線となった旧三江線の沿線にある鉄道林を利用・再生し、森林の持つ多面的機能を高度に発揮させ、美郷町の「美郷バレー構想」にある産官学民が一体となり、里山における鳥獣対策、交流の場として活用するものです。

今回は、鉄道林から伐採された木を丸太に加工→丸太を積んだ運搬車（フォワーダ）が線路敷を走行→運搬された丸太を道路近くでトラックに積替→出荷先に向かう、といった一連の作業を見学しました。その後、乙原集会所で、意見交換が行われましたが、線路敷を使用した木材搬出は全国初とのことでした。

丸太を積んだ運搬車（フォワーダ）はマクラギが重量を支持することにより沈み込むことなく、線路敷が木材の運搬路として有効に活用できることが明らかになりました。

今後は、伐採跡地に植栽することで森林を再生するとともに、他の鉄道林や民有林でも線路敷を利用した森林の活用が可能かどうか検討しながらこの取組を進めることになっています。また、この取組を通じて、木材需要地としての都市部との連携、美郷町の関係人口、交流人口の拡大が期待されます。

※鉄道林・・・鉄道会社が鉄道沿線に保有する山林で風雪や落石から線路を守る役割があります。島根県内の旧三江線沿線では主に江津市、川本町、美郷町に合計で約150haありますが廃線後は活用されていませんでした。

